令和４年度　北海道羽幌高等学校　自己評価票（教職員）　集計

9月14日（火）実施　回答数19名

A：あてはまる＝4点　B：だいたいあてはまる＝3点　C：あまりあてはまらない＝2点　D：あてはまらない＝1点

領域			評価の観点	達成状況		取組の適切さ		改善に向けた取組
				平均	前年平均	平均	前年平均	
学校運営	組織運営	1	本校の学校教育目標や教育実践は、生徒の実態や保護者・地域住民の願いを踏まえたものとなっている。	3.26	3.40	3.21	3.40	○幼小中高で連携し、実態を正確に把握すべき。 ○確実な引継ぎが必要。 ○反省アンケート等の回答数を増やす。
		2	育成を目指す資質・能力を踏まえ、学校内外の教育資源を活用した教育活動が実践されている。	3.21	3.25	3.26	3.35	
		3	前年度の学校評価や反省事項に基づいて、教育活動の改善を適切に行っている。	3.11	3.25	3.26	3.25	
	教職員の資質向上と服務規律	4	信頼される学校づくりに向けて、交通法規等の法令遵守や服務規律の保持及び不祥事防止など危機管理に努めている。	3.63	3.60	3.63	3.60	○業務の精選・人員増加・均等な業務の割振を要望する。 ○業務の効率化や組織的な取り組みを意識しながらやっているが質の向上につながっていない。委員会の見直しなどを進めていくべき。 ○各部署で「引継ぎ」と「継続」を心掛けている。 ○参加したい研修があっても、予算の関係で十分には研修できていない。 ○地域の人と話す場面で、色々と噂が自覚ない人も多く感じ、自分だけではどうにもならない。 ○研修時間がない。 ○外部講師による研修等も有効かと。 ○時間がとにかく足りない。仕事量の分け方も変に思える。 ○他分掌が関わる事案に有効に対応できる委員会が必要。 ○振り替え休みを取得しやすくする。部活動の精選、複数顧問の配置、教養講座の廃止または勤務時間内での実施、３連休に実施されるおろちゃんマラソンに参加しない。 ○業務の平準化を全ての分掌で目指す。本当にその業務が必要か前例を踏襲するのではなく検討する。 ○仕事と生活のメリハリをつけられるよう、計画的に業務に取り組む。 ○土日に実施される通信教育や模試監督、部活動指導まで含めると7連勤、14連勤の実態があると思います。意識から実践すべきと思います。 ○生徒にとって必要なことかどうか判断しながら業務の精選を行うべき。 ○教職員の協働ができておらず、一部に業務の滞りが見られる。協働体制を作ることが急務と考える。
		5	研修を積極的に推進し、実践的指導力の向上に励み、資質向上に努めている。	3.00	2.95	3.05	3.05	
	職員の働き方改革	6	組織的な取組により、業務改善への意識を高めている。	2.95	-	3.00	-	
		7	一人一人がワークライフバランス（仕事と生活の調和）の視点を積極的に取り入れ、効率的に業務に取り組むことにより、教育の質の向上に努めている。	2.68	2.80	2.63	2.85	
教育活動	教務	8	学習シラバスを活用した授業展開や観点別評価により学習評価を適切に行い、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図っている。	3.16	3.20	3.16	3.20	○小テストや課題などで勉強する理由付けをしている。もっと工夫をしたい。 ○教員自らが積極的に授業改善や工夫ができるよう効率的な業務方法を考えるべき。 ○新評価の所がまだ評価できない。 ○教員側がますＩＣＴ端末を活用した授業方法を模索すべき。 ○教員間の連携を密にして、教科横断的学習の質を高める。 ○他教科と連携を取り合い、教科横断的な授業を実践したい。 ○与えた宿題はやってきますが、自ら勉強する姿勢にはなっていません。今後の課題と思います。探究学習から答えのない課題に取り組む姿勢が活用できると思います。 ○中学生が見やすいのはTwitterでしょうか。 ○コロナ禍でPTAとの連携が難しい部分もありますが、外に発信できるようなものがあればいいと思います。 ○コロナ禍で難しさもあるが、行事におけるＰＴＡとの連携を積極的に進められたらよかった。 ○少しずつイベントが復活しており、参加する流れが出ている。 ○ICTに関しては、実践例の共有ができればいろいろな取り組みがしやすくなる。 ○余裕があれば総務系の取り組みは行いたい。 ○教科横断的な学習の場を意識的に作る必要がある。関連する教科間での情報交換などの場を分掌等で主導することも必要と思われる（道徳教育同様）。 ○技能を用いた評価の体系化を進める。
		9	知識・技能の習得に加え、教科横断的に思考力や判断力、表現力などの活用学力を育む授業を実践している。	3.00	3.10	3.05	3.25	
		10	主体的に学習（特に家庭学習）に取り組む習慣を身に付けさせる工夫・取組を行っている。	2.84	2.85	2.89	3.00	
		11	一人一台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、教育活動でICTや情報ツール、情報資源の活用を推進している。	3.00	-	3.11	-	
	総務	12	Webページやメール配信、各種通信等で本校の教育活動を外部に積極的に発信している。	3.42	3.30	3.37	3.40	
		13	学校行事の公開や地域行事等への参加を通して積極的に地域や関係機関・他校種等との連携に取り組んでいる。	3.37	3.00	3.37	3.10	
		14	学校とPTAの連携が十分図られ、PTA活動の充実を目指した取組を推進している。	3.32	2.85	3.21	3.10	
	生徒指導	15	いじめ防止に向けた校内体制が確立し、日常から生徒の状況把握及び未然防止、早期発見に努めている。	3.21	3.30	3.32	3.30	○行事等生徒会主体で生徒に考えさせ、生徒たちが活動できるよう早めの教員の仕掛けが大切。教員が決めた指示するを減らし自ら考え協働することを増やす。 ○教職員側の言動に隙がありすぎる。日頃から生徒は持っている以上に教員をみている意識を全体で高める必要がある。 ○教員は生徒のためを思って一生懸命に動いているととても感じます。 ○生徒指導、健康安全ともに人権教育を元に命の大切さやいじめ防止に取り組まなければならないと考える。そのためにも生徒情報の共有は必須であるが数名の先生方だけで押さえられている所が少なくない。また、生徒に協働を求めるならます教職員が協働できなければ難しいと考える。 ○ボランティア活動の精選をすべき。 ○教科内で命の教育をすべき
		16	学校行事や部活動等を通して生徒が自ら考え仲間と協働する力を育んでいる。	3.32	3.45	3.32	3.40	
		17	ボランティア活動等の地域と連携した活動を通して自尊感情や自己有用感の高揚を図っている。	3.21	2.95	3.21	3.05	
		18	多様な生徒の特性や悩みを理解し、カウンセリングや特別支援教育体制の充実を図り、サポート委員会など校内体制の確立と関係諸機関との連携に努めている。	3.32	-	3.37	-	
	健康安全	19	各教科の授業や各種教室・講演会等を通し、機を捉えて命や健康・安全の大切さを指導している。	3.32	3.40	3.32	3.40	
		20	生命尊重の精神を養い、家庭との連携を深めながら、健康の保持増進に努めている。特に交通ルールやマナー指導を徹底し、交通安全に対する意識の高揚に努めている。	3.26	-	3.32	-	
	進路指導	21	生徒の自己実現に向け、3年間を見通した組織的で体系的なキャリア教育を行っている。	3.16	3.15	3.32	3.10	○探究学習の内容改善は急務。ガイダンスは充実しているが志望校の決め方に拙さを感じる。志望理由書の指導を早期から。 ○生徒の頑張りを伸ばし、褒めたりする点は生徒の前向きな姿勢につながっていると思います。
		22	収集・分析した進路情報を進路ガイダンスや保護者説明会などを通して生徒や保護者に適切に提供している。	3.37	3.40	3.42	3.35	
		23	生徒個々の良さや可能性を引き出し、各種の資格取得を目指し、一つ上の進路目標や将来の生き方、人生設計を育む態度を育成している。	3.21	-	3.32	-	
	道徳教育	24	教科等横断的な視点により学校教育全体で道徳教育に取り組んでいる。	3.16	3.05	3.16	-	○単元配列表を活用できていない。 ○生徒とのトラブルも見受けられるが、道徳教育ができていないと感じる。
		25	地域の人材や関係諸機関と連携した道徳教育に取り組んでいる。	3.11	3.05	3.16	-	○やれないのでは？ ○道徳教育に時間を割けるゆとりがない。